

第 91 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨

- 日 時 : 2021 年 12 月 16 日 (木) 15 : 30 ~ 16 : 48
- 場 所 : オンライン開催
- 出席者 :
 - [学外委員]
石田委員、今井委員、奥委員、嶋津委員、名取委員、林(康)委員、板東委員、
 - [学内委員]
田中学長、黒澤理事・副学長、道下理事・副学長、小島理事、木島副学長、高田副学長、細江副学長、岡本大学運営局長
 - [オブザーバー] 田代監事、林(礼)監事
 - [説明者] 林隆之教授 (協議事項のみ)
- 欠席者 :
 - [学外委員] 長谷川委員、林(文)委員、藪中委員
 - [学内委員] なし

I. 審議事項

特になし。

II. 報告事項

1. 2020 年度に係る業務の実績に関する評価結果について

岡本大学運営局長から、2020 年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

- ：特筆すべき点、注目すべき点に取り上げられるとどの程度予算等への影響があるか。
- ：本学は目的からして特徴的であり、文部科学省から注目されやすい活動の展開が重要である。
- ：本学は多様な取組みを実施しているため、文部科学省の目に留まるような報告の方法を検討したほうがよい。

2. 2020 年度目的積立金の承認について

岡本大学運営局長から、2020 年度目的積立金の承認について報告があった。

3. 2021 年人事院勧告について

岡本大学運営局長から、2021 年人事院勧告について報告があった。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

- ：人事院勧告と直接関連するものではないが、人事院規則は不妊治療に係る休暇の付与等の改正が行われており、本学でも今後検討してはどうか。
- △：今後検討していきたい。

4. その他

特になし。

Ⅲ. 協議事項

1. 教育プログラムの充実について

田中学長、道下理事、林教授から、教育プログラムの充実、国際的指導力育成プログラム及び科学技術イノベーション政策プログラムについて報告があった。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：社会的なニーズに合致し、学生数も増えており、大変すばらしい取組だと思う。年齢層が高めとのことであるが、年齢が上がって入学される方がプログラムに期待することは何か。また、週末・夜間に学べるプログラムへのニーズが高いと感じたが、他のプログラムで、同様の取組を考えていく余地はあるか。

△：年齢が高い方には、海外のカウンターパートは博士や修士の学位を持っていることが多く、その中で専門分野のことを研究して業務に臨みたいという希望がある。週末・夜間の展開については、現在試行的ともいえる状況であり、今後状況を見て検討することとなる。

○：週末・夜間の展開やオンラインの活用による他大学との単位互換等、多様な取組を実施している。着実に成果を積み重ねながら、新たな取組をしてほしい。

△：地方から1年大学に来ることは難しいといった状況も想定されると同時に、本学で実際に一緒に勉強することが重要である面もあるため、多面的に考えていきたい。

○：オンラインの比率はどの程度か。

△：現状では70%程度の講義がオンラインで実施である。感染の状況と、講義の内容を考慮しながら実施している。

△：地方からの学生はオンラインで受講できるようにしている。

△：オンラインでグループワークができるかなど、オンラインに不安もあったが、オンラインソフトウェアなども充実しており、問題なくオンラインで実施できている。ただ、学生からは、授業としてはほぼ問題ないが、懇親会などの学生間のコミュニケーションが少なくなることが残念であるという意見があり、その点が課題だと考えている。

△：学問的内容の討論はオンラインでもほぼ問題ないが、インフォーマルなコミュニケーションは難しい。その意味で対面を無くすのは適当ではないと思う。

○：例えば完全オンラインで実施など、あらかじめ実施形態(オンライン、あるいは対面)を示すことができると出願者も変わってくると思う。

△：今後、教育効果に特に問題がないということが実証できた場合には、明示的にオンラインのみで修了できることを示す可能性をその時点で判断することを考えたい。林(康)委員：大変魅力あるプログラムであり、フレキシブルに門戸を広げ、地域的にも広く、年齢的にも幅広く受け入れていくのがよい。

○：大学のURAや大学で産学連携を担当している職員にとって魅力的なプログラムである。理系大学へのプロモーションは実施しているか。

△：URA育成等についても今後検討したい。

○：日本では、博士課程への進学者が減少していること問題である。国際的指導力という面では、学位は非常に影響があるため、何らかの形で博士の学位に結びつくような工夫していただきたい。

○：科学技術イノベーション政策プログラムの補助事業終了後においてもプログラムを充実していくためにどのような計画を持っているか。

△：大学として事業が終わった後も維持できるような体制を考えていくところであり、このまま維持、また発展させていきたい。

○：多様な学生がいることから、長期履修制度や単位ごとの授業料設定などを検討してはどうか。

2. その他
特になし。

以上